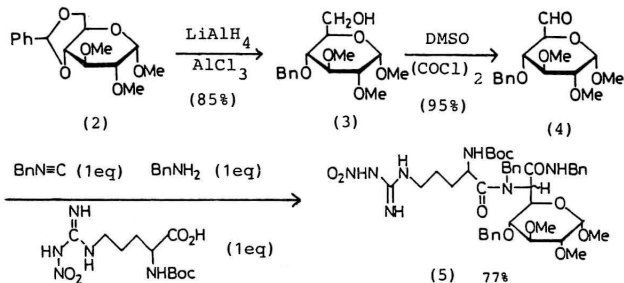
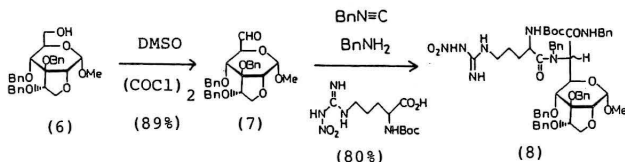


1. 分枝糖ヌクレオシド抗生物質であるミハラマイシン(1)は、*Streptomyces Miharaensis*より単離され、イネイモチ病カビに抗カビ性を示すことが知られている。本研究は、(1)の合成を目的とし、 α -アミノ酸構造の構築及び、2-アミノプリン塩基の導入について検討した。

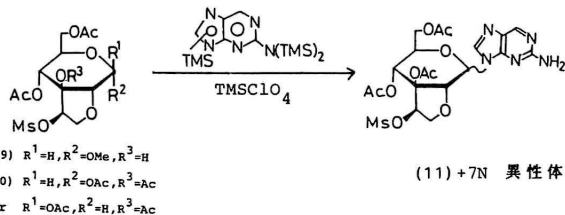
2.3.はじめに、モデル化合物による α -アミノ酸構造の形成を検討した。4,6-O-ベンジリデン-2,3-O-0-メチルグルコピラノシド(2)を出発原料とし2行程で、4-O-ベンジル-2,3-O-0-メチル-1,6ジアルドヘキソピラノシド(4)を得た。(4)をメタノール中、当量のベンジルイソニトリル、ベンジリアミン、及びN^q-ニトロ-N^o-トプトキシカルボニル-L-アルギニンを用いUgi反応を行なったところ(5)が77%の収率でジアステレオマー比(7/3)で得られた。



次に、ミハラマイシンの骨格となる分枝糖(6)¹⁾を酸化し、(7)を89%の収率で得た。同様のUgi反応を行ない、(8)を80%の収率で得た。



2-アミノプリンのグリコシド化については、モデル化合物(9)を無水酢酸/無水トリフルオロ酢酸/硫酸を作用させて得られる(10)に、すでに報告した方法²⁾で2-アミノプリンを導入し、(11)を得た。現在、(8)への2-アミノプリンの導入を検討中である。



1) K.Hara, H.Fujimoto, K.Sato, H.Hashimoto, J.Yoshimura Carbohydr. Res.,投稿中

2)原一利・藤本浩・佐藤憲一・橋本弘信・吉村壽次
日本化学会 60年秋季年会予稿集II P736(1985 金沢)

はらかずとし・ふじもとひろし・さとうけんいち・はしもとひろのぶ・よしむらじゅうじ